



発行所
鶴崎神社
 早島町早島2220
 〒701-0304
 TEL 482-0097
 FAX

宮司就任挨拶

鶴崎神社宮司 太田浩司



謹啓 緑の春の候となりましたが氏子の皆様には益々ご清祥の御事

とお慶び申し上げます。
 私儀、この度、廣山宮司の後任として平成十年四月一日付けをもちまして神社本庁より鶴崎神社宮司を拝命し、就任致しました。

鶴崎神社はこの吉備の国を平定し平和と秩序をもたらした「大吉備津彦命」を御祭神と仰ぐ、旧都窪郡諸社の内では最大の規模を持つ氏神さまであり、広大な境内地と荘厳な社殿を

拝するにつけ早島の人々の崇敬の厚さが窺えます。

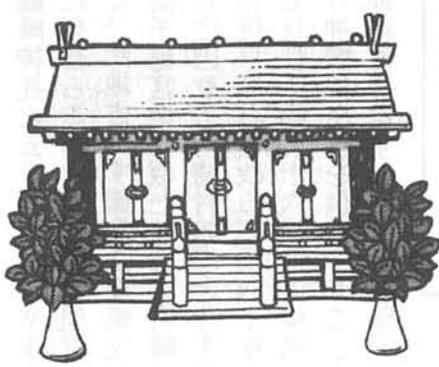
この由緒深い神社にご奉仕出来ますことは誠に光栄な事とは存じますが、同時に責任の重大さを感じている次第であります。

前任の廣山宮司は実に三十六年の永きに渡りこの神社に奉仕され、ご神徳の昂揚に尽くされてまいりましたが、そのご努力を無にすることなくご祭神のご加護を仰ぎ一意専心、神明奉仕の誠を尽して、ご神徳の昂揚と社頭隆昌の為に努力致す所存でございますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

尚、今回から神社と氏子の皆様を繋ぐ交流の場として、神社の由緒や祭事等の事についてご紹介する手段として鶴崎神社社報「つるさき」を年二回（春・秋）発行する事と致しましたので、ご覧いただければ幸甚に存じます。

命名書・賞状などの供え方

家族の御祝や記念日などにはそのつど神棚に、奉告したいものです。子どもの誕生に際しては、命名書を神棚にあげて、奉告いたします。その期間は、お七夜前後から、初宮参りが済むころまで、約一カ月くらいが適当です。その他、卒業証書、賞状、辞令なども、お供え物と同じように供えてください。神棚がせまい場合は、適宜工夫をしてください。また、破魔矢・だるまその他の縁起ものなどは、必ずしも神棚に供える必要はありませんが、広く、余裕のある場合は、あげておいてもよいでしょう。



昭和二十七年三月作成
神社明細書より

吉備津神社神職社家賀陽氏古
書より

本社は貞和六年庚寅二月二十一日創立郷民の志願に依りて吉備の中山より大吉備津彦命荒魂を齋き祀り賀陽盛芳祭主たり太田直全祝部とし

て当地に移住す其の後領主浮田氏より旗下戸川氏代々崇敬厚く享保年間神祇管領にて神階正一位に叙せられ本社は元御崎宮と称す維新の際鶴崎神社と改称す明治四年九月四日郷社に列せられ同四十一年神饌幣帛供進指定社となり現に当地方四ヶ町村に渉り千八百戸の産土神なり。

此の地古称『鶴嶋』又『鶴崎』又日向の国高千穂宮地に似たりとして『宮崎』とも云ひしに依りて宮崎村鶴崎と称す明治九年合併早島村と成る。

撰社八幡神社は古老の口碑に依れば正中年間神宮皇后三韓征伐のとき海岸に船泊りありたる地なるにつき里人此の宮を齋き祭りしと云う。

鶴崎神社の由緒

御崎大明神と奉讃せしは大吉備津彦命の御荒魂を称え奉りしに依るこの例は我が国各所の御崎神社又は御崎宮と称すると同意なり。

鶴崎神社と奉称するは御鎮座の山態容姿が鶴の舞える形に似たるに依り山名を鶴形山と言ひ且つ又其の山の西南一帯が内海の潮水干満し土砂埋滞して廣き浅瀬となり之に生息する稚魚蟲族を食ふ為多数の鶴常に来り住み舞鶴山上の松樹に休息し旭日に群鶴高らかに鳴き大空を舞い遊べるより自然に舞鶴山の名称となるものと信ぜらる。創立貞和年中吉備の中山より勧請当領主浮田氏後に旗下戸川氏崇敬厚く享保年中神祇管領にて正一位の神位に叙せられ御崎宮と称す。

中興神佛混淆のときあり神官及僧侶にて神務を掌る其の別当神宮寺廃絶年証不詳。社人太田家三名は世襲位階従下職名大官司に被任維新の時廢せらる今號

して鶴崎神社と云う明治四年辛未九月郷社に列せらる御成規に因て伺官一名を置く。此地古称す鶴島又鶴崎又日向国天高千穂宮地に似たりとて宮崎とも云ひしに因りて宮崎村鶴崎と称す明治九年合併早島村と改る明治四十年一月二十七日勅令第九十六號第一條第二項により神饌幣帛料を供進することを得べき神社に指定す。

御祭神との由緒

四道將軍として都より吉備の国へ御降り遊ばしし彦命は温羅と称する凶賊を平定し給ひ常に国内を巡察させ給ひ五穀耕作の状を具に見そなはし民情を察し業を奨励し給ひしまにまに民心委く彦命の御恩威に感じたるは当然なりとす。往昔内海は甚だ廣く吉備中山山麓迄も干満の海潮汀に浪打ち寄すること太平記、源平盛衰記の文中にも記され備中誌にも書ける処の如く彦命は国内御巡視の外にも群鶴の御獵と當鶴舞山の南出崎(今の弁才天)の海岸が浦人の海魚別して鯛釣に好適の処なり。内海唯一とも言うべき絶景を嘉みせら

れ数々御行きさせられたる由にて現在郷社御本殿の場所に丁度良き自然の巖石ある処を常に仮の御座として御休息あらせ給ひ四方の景色を深く御賞あそばされ浦人達より奉る澆刺たる鯛其の他の生魚を納められて御満足の時には御泊されしと伝う。

彦命御神上り座してより浦人達といたく御尊徳をしたひ奉り衆人相謀り彦命の御座させ給ひし巖石の周圍に注連縄引き廻し祭壇を設け奉りて年々御祭を行ひ真金吹くなる宮内の社家賀陽氏に請ひて典儀に依り仕へ奉るに至り遂に小祠を岩上に奉建したる処賀陽氏御崎大明神と申し上げ奉り爾來數回御改築奉仕現今に及びり此の項は現在古老中に物語れるものあれども文献は元宮崎村の旧家溝手真七事現在の早島町にて最古の土地神社に就ては最も縁深き処なり溝手氏は早島町内溝手氏の最も古き家柄にて地頭より苗字帯刀を許され神社に対して亦古き寄付等あり宮崎村庄屋を代々勤めたる家柄なり。



り焼失せしを惜しむ元長津村旧家大森初右衛門古より長津に居住し代々大庄屋を勤め苗字帯刀の家柄なり。

右二家に彦命の御巡視御来遊の状況を群鶴の棲息せる絵画等神社建設の由来書に至るまでの珍藏せられたる由なれど溝手氏は火災に依り大森氏は没落に

よりにこれが逸散して現存せる者無きは惜しむべき次第なるも之を拝見せし古老の語り伝へは今尚判然せり。以上六百年前を想像して事実なりと信ぜらるは実地の地形周囲の景観内海の静かなる小舟小帆運行等より考察して真に迫るものなり。

賀陽氏古書より

神棚のまつり方 その①

神棚は何処に設けたらよいのでしょうか。その際最も重んじなければならぬのは清浄ということ。清らかで、明るく静かな高い所が、最もよいでしょう。また、家族の人が親しみやすく、お供え物をしたり、拝むのに都合のよい場所というのも条件に入ってきます。神棚の方向は、南、あるいは東向がよく、大きさは適宜です。二階のある家では、神棚の上をひんぱんに人が歩くところは、避けなければいけません。

一年に二回あつて春分と秋分に最も近い戊(つちのえ)の日をいいます。前後同日数の場合には、前の方の戊の日を社日とします。

春の社日を春社、秋の社日を秋社といい。「社」は、生まれた土地の守護神で、ある産土神(うぶすながみ)のことです。

社日

この日、産土神に参拝し、春には五穀の種を供えて豊作を祈り、秋は収穫のお礼参りをします。

この地方ではよく路傍に『地神』と刻まれた石碑がありますが、この神様の祭礼日が「社日」が多いようです。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・当病平癒その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・宅神祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

社務所新築について

この度社務所を新築する事が決議され既に工事は順調に進んでおります。今回新築する社務所は二十畳の大広間(半分に分割可能)と授与所を併設するもので、主に総代会等会議に使用する目的ですが、氏子団体の諸会合、祈祷・祭典の待合い所、その他休憩所として皆様のご要望にこたえて幅広く活用して行きたいと思っております。事情をご理解下さいまして浄財寄進方向卒よろしくお願い申し上げます。

尚、竣工予定は九月二十日となっておりますので、諸事情を勘案し、浄財寄進は八月末を目処にご奉納下されば幸甚に存じます。

お知らせ

五月から毎月一日(二月を除く)午前九時から『月次祭(つきなみさい)』を執行致します。ご参拝下さいまして、祭典にご参列下さい。

月の始めに気持ちも新たにご一家の安泰を大神さまにご祈念致しますよう。

春季大祭のご案内

来る五月十六日(土)午後七時から恒例の春季大祭前夜祭また十七日(日)午前十時から春季大祭を執行致します。当社におきまして二大祭の一つでありますので、ご家族お揃いでお参り下さいまして、大神様のご神徳をお受け下さいますようご案内致します。



祭事暦

五月十六日(土) [午後七時]

春季大祭前夜祭

五月十七日(日) [午前十時]

春季大祭 [供膳祭]

七月三十日(木) [午後四時]

夏越祭 [輪くぐり祭]

毎月一日(午前九時) 月次祭

※月次祭にお詣りの方は、拝殿にご昇殿下さいまして祭典に参列して下さい。